令和４年度　日野市立滝合小学校経営重点計画　　自己評価シート　　令和５年３月公表

★学校教育目標　◎「未来を創造する子」（重点目標）　○自ら考え学ぶ子　○思いやる心をもち、行動する子　○健康でたくましい子

★目指す学校像（ビジョン）

【めざす児童・生徒像】
◎未来を創造する子（重点目標）　：「想像力」「対話力」「自己有用感」
○自ら考え学ぶ子　：「課題発見解決力」「表現力・発信力」
○思いやる心をもち、行動する子　：「豊かな感性・創造性」「人間関係形成力」
○健康でたくましい子　：「心身ともに健康な体・行動力」「社会貢献力」

【めざす学校像】　みんなに居場所や出番がある学校

【めざす教師像】
○　すべての“いのち”を守り、育む教師　○　子供一人一人を大切にした温かい学級をつくる教師　○　地域をステージにした、主体的で対話的な深い学びを展開できる教師
○　特別支援教育の専門的な知識や技能を身に付けた教師

★重点計画の概要

日野市第3次学校教育基本構想に基づき、学校経営目標を「みんなに居場所や出番がある学校」とし、“いのち”を守る・対話でつながる・未来を創造する児童を育む。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準						学校評議員・学校運営連絡協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標		評価点	成果指標			
いのち	自分自身を大切にし、人の気持ちを考え、優しさと思いやりの心をもち行動できる児童の育成。	様々な人と関わる体験を重ねることにより、互いに思いやりや助け合う態度を育み、いじめをせず、自他の命や多様性を尊重し、自己肯定感を高める教育活動を実践する。	特別な教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心とした全学校活動を通じて、自他の心と体を大切にする思いを高める「いのちの授業」を行う。	4	4　学期に１回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が９０%以上 3　学期に１回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が８０%以上 2　学期に１回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が７０%以上 1　学期に１回以上「いのち」をテーマにしたり、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教員が７０%未満	4	4　「自分や周りの人を大切にして生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が９０%以上 3　「自分や周りの人を大切にして生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が８０%以上 2　「自分や周りの人を大切にして生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が７０%以上 1　「自分や周りの人を大切にして生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が７０%未満	・ビオトープや農業活動体験を通じて、環境問題や生物の命について学び考えることができている。自分たちの身の周りの環境づくりは周りの人への思いやりにつながるとても良い取組だと思う。給食も命の題材には良いのではと思う。 ・３年生頃の指導の話があったが、難しい年頃なのだと思う。失敗と成功を繰り返して大人になることを念頭におき、自分と他人共に大事にしていくことが必要と考える。また、正式な授業以外でも事あるごとに先生からの問いかけが欲しい。 ・人の気持ちを考えるには、まず誰もがやる気になればできる「挨拶」がある。学校内は元より、登下校の時勇気をもって声を出してほしい。	・各教科、総合的な学習の時間等を中心に教育活動全体を通じて「いのちの授業」を教員が意識して取り組んだ。学校の田畑、ビオトープ、芝を生かした活動により、環境、生物、植物のいのち、人とのつながりを経験し、自他の命や多様性を尊重する姿勢や自己肯定感の向上が見られた。 ・学級活動で話し合い、合意形成を図り行動する体験を積ませる。また、人とのつながりの基本となる挨拶をすることのよさを体験させ、社会参画意識を醸成する。
			校内委員会、特別支援コーディネーター、いじめ対策委員会、スクールカウンセラー等と連携し、組織的ないじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。 生活アンケート（４月、９月）とふれあい月間のいじめアンケート（6月、11月、2月）を行い、気になる児童への丁寧な聞き取りと、全職員での早期対応を行う。	4	4　全員の教職員が、いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った。 3　いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が95%以上。 2　いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が90%以上。 1　いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、対応を行った教職員が90%未満。	4	4　友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が90%以上。 3　友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が80%以上。 2　友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%以上。 1　友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%未満。	・いじめに関しては、とにかくアンテナを張り巡らせて未然防止、早期発見に全力で取り組んでほしい。そのためにも日頃から教員同士の情報交換、また、学童保育やひのっちとの連携も必要であると思う。対応に対して評議員としてできることがあればできる限りの協力をしたい。 ・いじめの当人同士より、周りの児童たちの意識を向上させることが防止につながるのではないか。 ・運動会、音楽会、研究発表など協働する場面で、児童がトラブルを乗り越え、お互いの良さや個性を認め合う機会を今後も大切にしてほしい。 ・いじめ＝「嫌な気持ち」と定義し取り組んでいると聞き、命や多様性を育むための具体的取組と感じ評価している。	・いじめの未然防止のために、日常の教員同士の情報共有に加え、生活指導部が学童保育、ひのっちと連携して、組織体制を強化する。 ・学校・保護者・地域の連携を一層深めるために、学校webページ、学校便りに掲載して発信し、新年度４月の保護者会で「いじめ防止基本方針」を説明をして、協力を仰ぐ。 ・ふれあい月間に、児童への指導と教員研修を位置付け、いじめ防止対策委員会を中心に学校全体で実施する。
学び	日野市第３次学校基教育本構想に基づく教育活動を行い、みんなに居場所や出番のある学校をつくる。	一律一斉の学びから、自分を知り相手を知り、自分たちで考え、語り合いながら生み出す学び合いと活動を実践する。	地域をステージとした生活科・総合的な学習の時間の学習を中心として、対話的活動を展開することで、児童の課題解決力を高め、他者との協働性を育む。 授業、家庭学習を通して、一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方の習得をする。	4	4　授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が90%以上 3　授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が80%以上 2　授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が70%以上 1　授業や家庭内での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教員が70%未満	3	4　「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が９０%以上 3　「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が８０%以上 2　「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が７０%以上 1　「自分の考えをもち、進んで話すことができた。」と答えた児童が７０%未満	・両親が忙しい現代において家庭内での対話時間の減少は、悲しいことだが現実である。その中で工夫された家庭学習で対話を促進する努力がなされていることは良いことだ。 ・一律一斉の学びから、協働的な学びを通して児童が自らの考えを持ち、課題解決力を高めることに期待する。 ・ICT活用等、個に応じた学びの充実が今後必要である。 ・意見を出し互いに認め合う体験をたくさんしてほしい。 ・ドリル的学習の他にも情操的な題材が扱えるとよいかもしれない。（個に合った学びや体験について大人も学びたい。）	・担任と児童、児童と保護者の対話から児童が自己の家庭学習について考え、主体的に取り組むことができた。次年度も「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。また、ICTの活用も推進していく。 ・次年度は、令和2・3・4年度校内研究で取り組んだ対話的な活動を基に、地域をステージとした生活科・総合的な学習の時間に重点を置く。
健康	心身共に健全な行動力・体力の向上を図り、児童の健康を増進する。	体を動かす楽しさ・心地よさを味わわせるプロジェクトの取り組みを充実させることにより、生涯スポーツの態度を養うとともに、健康で安全な生活を送るための資質・能力を育む教育活動を実践する。	「滝合ハンドブック」を活用し、体育科やパワーアップタイム等、意図的な体力向上の取組や日常的な運動遊びを通じて、スポーツに親しむ健康な子を育てる。	4	4　体力・運動能力の向上を意識した授業や活動に取り組んだ教員が90%以上 3　体力・運動能力の向上を意識した授業や活動に取り組んだ教員が８０%以上 2　体力・運動能力の向上を意識した授業や活動に取り組んだ教員が７０%以上 1　体力・運動能力の向上を意識した授業や活動に取り組んだ教員が７０%未満	3	4　「自分からすすんで、身体を動かす活動に取り組むことができた」と答えた児童が90%以上 3　「自分からすすんで、身体を動かす活動に取り組むことができた」と答えた児童が８０%以上 2　「自分からすすんで、身体を動かす活動に取り組むことができた」と答えた児童が70%以上 1　「自分からすすんで、身体を動かす活動に取り組むことができた」と答えた児童が70%未満	・体を動かす機会がすいぶん減った。コオーディネーショントレーニングや体つくり運動など、体を動かす喜びを本来的に味わわせる機会を多く設けてほしい。 ・校庭が芝生という原点をさらに生かした体力向上策を期待する。 ・パワーアップタイムの再開や運動会など少しずつ体を動かす機会を増やした点を評価している。雑巾を絞れないという話があった。日常生活の中に健康、体力づくりのヒントがあるように思う。学校だけでなく家庭での取組のヒントも共有すると全体の底上げになる。	・「パワーアップタイム」を学期ごとに行い、児童が体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができた。しかし、児童に運動することの意義付けが不十分であった。次年度は体力調査の結果を生かしたり、取組に対する効果検証をしたりして、児童への意義付けを図りながら計画的に実践をする。 ・芝生を活用した体力向上策、健康づくりを目指した日常生活における体の使い方等、保護者・地域と連携した実践をする。 ・教職員が児童との対話を通して心に寄り添い、組織的に対応をする。
地域	地域とつながる教育活動を通して自己有用感を味わわせ、社会の一員としての自覚と実践力の育成を図る。	地域参画型の教育活動や地域人材を活用した体験学習等、地域をステージとした学びを充実させ、保護者・地域と共にわくわくが広がっていく環境をデザインする。	総合的な学習の時間や生活科等、SDGsカレンダーに基づき教科横断的に学びの充実を図り、持続可能な社会の実現に向けて地域と連携して教育活動に取り組む。 ・１・２年生は、地域の方々から生き物や学級園での植物との触れ合い等について学び、学習のまとめを発表する。 ・３・４年生は、地域の方々から生き物や学級園での植物の育て方等について学び、学習のまとめを発表する。 ・５年生は、地域の方々から田植え作業の流れを学び、実践、学習のまとめを発表する。 ・６年生は、地域の課題を知り自分たちでできることを考え、活動することで地域愛を育み、地域の方々へ発信する。	3	4　地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が90%以上 3　地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が80%以上 2　地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が70%以上 1　地域人材と連携を図り、自然体験や稲作体験、学年園活動に取り組んだ教員が70%未満	2	4　「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が90%以上 3　「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が80%以上 2　「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が70%以上 1　「自然や植物について地域の方と一緒に学び、学んだことを地域や家庭へ発信できた。」と答えた児童が70%未満	・滝合小はビオトープ、畑等を中心に地域の方々のお力添えをいただいている。学年毎の取組を更に明確にし、次学年へとつながる（上の学年が下の学年へ教える）切れ目のない学びを続けさせたい。 ・地域の方を交えての農作業や自然体験は、探求心や自己有用感を育むためにとても素晴らしい。コロナ禍、学校は大変かと思うがこのような活動をぜひ続けてほしい。 ・自然は少しずつ減ってしまうが、今ある環境を守っていく気持ちを伝えていきたい。 ・コミュニティ・スクールや地域での有志による祭り等、立場や役割の中で、かつ、それを超えての児童との地域住民の関わりが増えてきた１年だった。より効率的に機動的に動ける仕組を作り、児童がより元気に安心して通える滝合小になっていくことを期待する。	・令和5年1月10日からコミュニティ・スクールになり、更に地域と連携した教育活動を推進していく。 ・家庭や地域の方の協力を得て、生活科や総合的な学習の時間を中心に地域とつながる教育活動を推進する。そのために、校内だけではなく地域に出て、地域の人と関わり、発信をして教職員につながりを経験させる。 ・特別活動で異年齢集団による交流や対話、協働する活動を効果的に取り入れ、高学年が手本となる姿を下の学年の児童に見せていく。

※評価指標・評価基準は、２の段階を現状としています。